

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・前期/後期・B群
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・土木工学科
文学概論 (Introduction to Literatur)	担当教員	保坂直之 (Hosaka, Naoyuki)
	教員室	図書館2階 (tel 42-9064)
	E-Mail	hosaka@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位[講義] / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業(50分) + 自学自習(100分)〕 × 18回	
〔本科目の目標〕日本および欧米における近代・現代の韻文・ドラマ・散文作品を鑑賞・分析・批評し、文芸作品を味わうための方法を養いながら、日本語の豊かな表現力を身に付けることを目指す。		
〔本科目の位置付け〕国語の授業の延長線上にあるだけでなく、批評という行為には歴史・経済・文化へのさまざまな知識の有無が問われるという意味で、本科目は語学を含めたさまざまな基礎教養科目の結節点でありうる。同時に文章を書く、という演習的要素(作文指導)も加えて、実践的な言語表現力の養成も図る。		
〔学習上の留意点〕概論ではあるが、演習的要素も加味されている。つまり、鑑賞や分析(方法の例示)においては受身的な講義になるが、授業時間でのディスカッションやそれをもとにしたレポート執筆においては受講生(=批評者)の主体的な発言・発表も求められる。文学を通して自らを主張する楽しさも味わってほしい。鑑賞には日本語だけでなく英語・ドイツ語の基礎的知識が必要な場合もある。また、演習的色彩もあるので、受講者数が過多の際は調整をお願いすることがある(前期・後期の両方で開講する)。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
(A) 韻文(取り上げる作家・作品は予定)		
1 現代日本語の表現可能性(谷川俊太郎、吉岡実、吉増剛造)	5	1 日本の現代の詩表現の仕組みを理解できる。
2 翻訳の詩と原詩の対照(シラー(An die Freude)、リルケ(Sonette an Orpheus)、ハイネ(Seegespenst))	4	2 西欧の詩の作り方に沿って表現の仕組みを理解できる。
3 歌詞の鑑賞(フォークソングのメタファー)	4	3 さまざまな歌詞をもとに比喩を見落とさず正確に理解できる。
4 歳時記という仕掛け(日本の定型詩小論)	4	4 伝統的な俳句・短歌の構造を理解できる。
<中間試験>	1	* 上記の理解に基づいて自分の意見を入れて批評できる。
(B) ドラマ		
5 映像作品の作り方	4	5 映像作品の表現の仕組みについて理解できる。
6 台詞と人物イメージ (短編のオムニバス映画等を素材に利用する予定)	4	6 台詞のみを使った人物描写方法について理解できる。
(C) 散文(取り上げる作家・作品は予定)		
7 写実的描写(歴史小説の表現技法とノンフィクションの文体)	2	* 上記の理解に基づいて自分の意見を入れて批評できる。
8 夢の描写(ビートニクス、シュールレアリズム、中上健二)	2	7 リアリズムの表現手法について理解できる。
9 モダニズムの比喩(小林多喜二)	2	8 シュールレアリズムの表現手法について理解できる。
10 ポスト・モダンの比喩(村上春樹)	3	9 モダニズムとリアリズムの違いを理解できる。
<期末試験>	1	10 ポスト・モダンの傾向について理解できる。
<答案返却・解説>		* 上記の理解に基づいて自分の意見を入れて批評できる。
各試験での教員からのフィードバックを元に理解と批評能力を深める。		
〔教科書〕プリントで配布(資料や執筆したレポート等のファイリングをお願いする)		
〔参考書・補助教材〕読書案内は随時授業中に行なう		
〔成績評価の基準〕定期試験(レポート試験、2回)80% + 宿題レポート(20%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕2-a, 4-b		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕1-1, 2-1		
〔JABEEとの関連〕(a)(f)		